

議事録	会議名	朋有小学校・西巢鴨中学校校舎一体型小中連携校および総合体育場の整備等を考える会
議 題	1	学校施設検討部会の進捗と今後の進め方について
	2	意見交換＜こんな学校につくりたい＞
	4	事務連絡
日 時	令和 7 年 9 月 30 日（火） 18：30～20：00	
場 所	西巢鴨中学校 体育館	
出席者数	野田副部長（朋有小学校学校運営協議会）、他委員 15 名 事務局（学校施設課）4 名 傍聴人 1 名 支援事業者：9 名	
会 議 内 容（要 旨）		
＜会の概要＞		
1. 学校施設検討部会の進捗と今後の進め方について		
＜学校施設検討部会のこれまでの進捗と今後の進め方＞		
○学校施設検討部会のこれまでの進捗		
・第 1 回学校施設検討部会では、最新事例について講義を行った。		
・第 2 回学校施設検討部会では、小中連携について意見交換を行った。		
○学校施設検討部会の今後の進め方		
・学校施設検討部会は当初 3 回を想定していたが、会の進捗状況を考慮し、4 回へ変更する。		
・第 3 回と第 4 回は、提言書を見据えた意見交換を行う。		
・今回は教室や学習情報センター、体育館、プールなどの意見交換を行っていく。		
・第 4 回では、第 3 回の意見交換をもとに区から案を示し、その他諸室を含めた意見交換を行っていく予定。		
＜その他の取組みについて＞		
○子どもワークショップ		
・各学校の授業内および 3 校合同で実施し、子どもたちの意見を集めた。		
○アンケート		
・対象：地域、保護者、町会、教職員		
・期間：		
（区民）令和 7 年 7 月上旬～令和 7 年 9 月 30 日		
（町会）令和 7 年 9 月上旬～令和 7 年 9 月 30 日		
（教職員）令和 7 年 9 月 17 日～令和 7 年 9 月 30 日		
（保護者）令和 7 年 9 月 18 日～令和 7 年 9 月 30 日		
・目的：区民の方等広く意見を聴き、考える会へフィードバックすることで、議論の参考とする。		
・主な内容		
「学校で大切にしたいこと/改善したいこと」「新しい施設に取り入れることが重要		

だと思うこと」「校舎一体型小中連携校に期待すること」

○としまスポーツまつり・防災フェスへの出展

10月13日に開催予定のとしまスポーツまつり・防災フェスへ出展する。

(質疑応答)

・区民、教職員、保護者間のアンケートの調査方法や項目は同一なのか否か。質問事項や結果についても今後開示して頂きたい

⇒(事務局)教職員と保護者については、それぞれ聞く項目を分けて展開している。
集計結果については、集計後、速やかに共有する。

2. 意見交換＜こんな学校につくりたい＞

＜意見交換の概要について説明＞

こんな学校につくりたいというテーマを以下の観点から、意見交換を行う。

- ・小中連携、小小連携、三校連携：必要な取り組みや機能について
- ・小中の配置：同じ階に配置するか、別の階に配置するか。それぞれのメリット・デメリット。
- ・校舎とグラウンドの配置：校庭の数や、それに伴う校舎の配置について。
- ・施設・設備：教室、学習情報センター、体育館、プールなどについて

＜参考資料について＞

事務局より参考資料の説明

○第2回学校施設検討部会のまとめ【資料1】

「ハード面」「ソフト面」「その他」に分類し、第2回学校施設検討部会で出た意見を共有

- ・ハード面：バリアフリー、先生の休憩スペース、巣鴨小学校へのオンライン設備充実など。
- ・ソフト面：イベント等での三校児童の交流、対面交流機会の積極的な創出、小中合同事業、保護者が活動を見ることが出来る機会の創出など。
- ・その他：機能にとらわれない施設づくり、西巣鴨中が隣接する総合体育館と一体となることから、高有・西巣鴨はスポーツ面に特化、菅野小学校は文化面に特化した教育環境を提供する案など。

○連携教育に必要な空間・設備【資料2】

意見交換をもとに事務局から案を提示

(案) 朋有小学校・西巣鴨中学校は多目的に使用できる場所を整備し、スポーツ面に特化した環境を整備。巣鴨小学校は、展示スペースを設置し、文化面に特化した教育環境を提供する。

○学校改築に おける豊島区の学校施設の考え方【資料3】

- ・ 学習の場（多様な学習、三校連携）
- ・ 生活の場（防犯、コミュニケーション）
- ・ 地域の核（地域解放、生涯学習）
- ・ 防災拠点（救援センター、避難）
- ・ 環境への配慮（省エネ設備、環境教育）
- ・ コスト・運営（施設共用、小中連携に配慮）。

○池袋本町小学校・池袋中学校の見学会（共有）【資料4】

- ・ 小学校普通教室：低学年は校庭から教室へ直接出入りが可能。稼働間仕切により広い廊下と普通教室をつなげることができ、多目的な空間となっている。
- ・ 中学生普通教室：教室前のコミュニケーションスペース、小学校より廊下が狭いので各階に学年が集まれるラウンジが用意されている。
- ・ 体育館：小中それぞれ1つずつ。中学校は収納式舞台を設置。小中での相互利用も行う。
- ・ 共用部：職員室は小中共有。学習情報センターも小中共有。プールは小中共有で可動床と可動屋根を採用。家庭科室とつながりホールは小中の共用。
- ・ 防災：マンホールトイレ6基、かまどベンチ、防災井戸、非常時用太陽光パネル。
- ・ 環境教育：屋上庭園（並びの庭）、ビオトープ。

（見学会での意見）

良い点は体育館が小中別（運用面）、中学校教室前のコミュニケーションスペース、小中からアクセス可能な学習情報センター。

改善点は室内や廊下に角が多く、丸くすることで空間が柔らかくなるという意見。

○小中の配置イメージ【資料5】

- ・ 共用部中心に小学校スペースと中学校スペースを分ける案
- ・ 小学校と中学校を同一階に配置する案
- ・ 小学校と中学校の階を分ける案

○校舎とグラウンドの配置イメージ【資料6】

- ・ A 案：校庭を小中別々に2面確保 ※小学校校庭は屋上校庭を想定。
⇒小中の使用方法や体格差に合わせた運用が可能。建物は低層化しやすい。
- ・ B 案：校庭を広く一体で確保
⇒校庭を広く使えるが、小中での使用調整が難しく、仕様を合わせる必要があり、建物は高層化しやすい。

<意見交換の概要>

○小中連携/小小連携/3校連携

- ・ 実際に小中でどのような連携を行うのかによって、校庭など、施設のあり方も変

わってくる。

→放課後活動（部活動等）での連携は可能と考える

- ・小中連携でのメリット・デメリットについて【西巣鴨中学校校長】

→教科担任制の可能性。東京都の一部学校では先行して小中兼務を実施している事例あり。理科・音楽の授業等で小中の教職員連携。小中連携校ならではの連携のあり方（西巣鴨中・朋有小・巣鴨小で同じ内容の事業等/職場体験での連携/ex. 家庭科での合同授業）。中学校の運動会に小学生が参加する。【朋有小学校校長】

- ・人間関係が固定化されるのではないかという心配。朋有小・西巣鴨中が一体施設となり、巣鴨小が中学から合流する形になることで交友関係に格差が生まれな

いか。
→関係が深まるメリットと一度崩れると難しいデメリット、中学で新たな関係が生まれるメリットもある。小中連続する教育で中一ギャップへの対応できる。教職員連携できるのはメリット。中学校の教職員だけでなく小学校の教職員に何ができるのかは検討事項（探求授業等）。【巣鴨小学校校長】

- ・小中連携のあり方（P3 の内容）。学校教育＋子どもスキップ、生涯学習支援（地域開放・町会等の連携）、防災拠点としての救援センター。スポーツ施設との関係、子どもスキップとの関係、地域との関係など、それぞれの視点を広い視野で施設計画を行っていききたい（目的・政策）

- ・子どもの交流の施設の配置については、西巣鴨中・朋有小だけでなく、巣鴨小も含めた交流。同じような環境で学習ができるように。

- ・コミュニティスクール構想に係る活動（移動教室等）、現状の取組みを整理し、未来で何ができるのか考えていきたい。

- ・巣鴨小と新校舎間のバス運用の可能性はないか。

→いただいた意見を教育委員会の中で共有していく。【事務局】

- ・夏祭りなどで西巣鴨中学校区内の 16 町会を回ったが、とても広いエリアだと実感した。是非、教育委員会の皆様も、地図上で測るだけでなく、実際に現地を歩いて体感して頂きたい。

○小中の配置

- ・小中のゾーニング分け（学習情報センターの運用）について司書さんの役割も重要。小中のゾーン（書架）が同じフロアで分かれている方が良いと感じる。また、空間のポイントは、視覚的に角は丸みをおびるような形が良いか。

- ・小中の配置の資料について、他区の事例も小中連携校なのか。

→どちらも連携校である【支援事業者】

○校舎とグラウンドの配置

- ・C 案の可能性。野球場に並行して小中の校庭を設け、校舎は L 型に配置する。小中の校庭は一体で地上に設け、活動に応じてフェンス等で区切る工夫する。

→総合体育場との関係性もふまえて今後検討する。【事務局】

- ・西巢鴨中・朋有小学校の既存の校庭面積と新たな施設の校庭の面積はどうなるのか。
→【既存】西巢鴨中：2500 m²程度、朋有小学校：2300 m²程度（仮設校舎建設後）／【新設】既存の合計面積以上を確保していきたい。【事務局】
- ・池袋本町連携校は敷地面積が広く校庭の確保は問題なく計画できた。敷地面積が限られるなかで十分な機能や校庭面積の確保ができるのかどうか
→敷地条件に沿って、必要な機能・面積が確保できるように検討を行っていき
たい。【事務局】
- ・敷地面積に対して必要な機能が多いように感じる。特別教室の共用利用等の可能性はあるが、校庭面積やコストが心配である。
→立体的な空間構成の工夫で使いやすい校舎を検討する。学校を含めた他の公共施設と過度に財政負担が重複しないような計画としているが、補助金の活用を含め、財源確保に努めていく。【事務局】
- ・校庭面積を確保できるかが気になる。気候が厳しくなることが予想されるなかで、校庭面積をおさえ、屋内スペース・体育館を充実させる可能性もあるのではないか。広い校庭を確保できたほうが運動会などの活動がしやすいのではないか。

○支援事業者からのコメント

- ・面積をどのように確保するのが課題。小中学校機能をできるだけ低層、スポーツ施設を高層等の工夫を検討。詳細は全体会で議論を行う。
- ・今回の意見もふまえて、コンセプトや理念等、計画で大切にしたいこと（目標）を整理して議論していきたい。西巢鴨中・朋有小・巢鴨小の三校での連携を大切にしたい計画が重要（巢鴨小が独立しているからこそその良さや改修計画等）

3. 事務連絡

- ・第4回学校施設検討部会の開催日程は追って連絡する。
- ・10月13日（月）にとしまスポーツまつり・防災フェスにて、アンケートを実施するため出展する。

次回日程

10月下旬開催予定（別途お知らせいたします。）